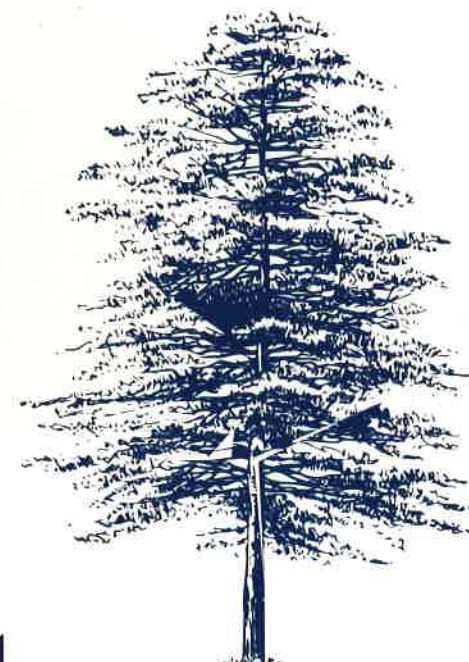




沼津工業高等専門学校同窓会
〒410-8501 沼津市大岡3600 TEL0559-21-2700



Copse

2001 Vol.15

ALUMNI BULLETIN,
NUMAZU COLLEGE
OF TECHNOLOGY

Copse

コブス

語源は英語の COPSE〈雑木林〉です。
沼津高専創立当時、学校周囲に林立し、
今もなお食堂付近におもかげを残している雑木林と、
校歌の中の「伸び急ぐ小林が樹」
をイメージした愛称です。



沼津工業高等専門学校同窓会誌
第15号

CONTENTS

Copse 2001 / Vol.15

- 皆さんお元気ですか 学校長 山下富雄 ... 2
- 会誌発行によせて 同窓会会長 木ノ内倫弘 ... 3
- 同窓会員の皆様へ 同窓会副会長 加藤 清 ... 4
- 東海にそびえて名あり・沼津高専 事務部長 宮田靖之 ... 4
- 学生課関係の現状について 学生課長 眞野 初 ... 6
- 高専の今と昔 同窓会顧問 若松勝寿 ... 8

各学科より近況報告

- 機械工学科の近況 機械工学科主任 柳田武彦 ... 9
- 電子制御工学科の近況報告 電子制御工学科主任 小林幸也 ... 10
- 電気電子工学科(旧電気工学科)の近況 電気電子工学科主任 高橋儀男 ... 11

西湘支部報告

- 沼津高専・西湘地区同窓会 同窓会副会長 増田徳一 ... 12

イベント・クラブ活動報告

- 勝澤英夫先生退官記念講演会・祝賀会報告 C2 小宮山政晴 ... 13
- 全国制覇の軌跡 沼津高専サッカー部より ... 14
- 1999年8月5日～8日 2度目の全国制覇を終えて サッカー部監督 坂井徳尚 ... 20
- 沼津高専サッカー部全国制覇祝賀会 サッカー部OB会長 米山邦彦 ... 21
- 弓道部のこの頃 弓道部顧問 芳野恭士 ... 22
- トライアスロン部 トライアスロン部顧問 三谷祐一朗 ... 23
- テニス部の近況 テニス部顧問 竹口昌之 ... 24
- ソフトテニス部OB会紹介 E8 小野美英 ... 25

会員より

- これだってIT革命!? M20 長谷川智之 ... 26
- 心臓ペースメーカーと携帯電話 C18 秋元英樹 ... 27
- 近況報告 M22 山田伸弥 ... 28
- 冒険家となって E29 金指文明 ... 29

- 編集後記 30

皆さんお元気ですか。

学校長 山下 富雄



同窓会の皆さんお元気でしょうか。皆さんの母校沼津工業高等専門学校は、今、新しい時代を迎えようと、教職員一丸となって頑張っています。

施設の整備としては、専攻科棟ができ、また、新しい基準に基づく新講義棟が完成し、80㎡の広い講義室で余裕をもって授業を聞けるようになりましたし、念願であった古い寮の改築も全て終わりました。

そして、次は内容の充実ということで、学生に対する教育の向上を図るため、その改善を目的として、自己点検評価委員会を設け、特に熱意のある若手教官を中心に専門委員会を設け、既に報告書をまとめました。

(本校のHPに貼り付けてありますので、どうぞご覧下さい。)

その報告を受けて、今、学生諸君の「授業アンケート」と「学習と生活に関するアンケート」を実施すべく準備を進めています。

先輩諸君も在学中に感じた授業や学生生活に関する改善希望があれば是非校長までお知らせください。後輩のために生かして行きたいと思えます。

課外活動の充実も本校の課題ですが、なかなかよい案がありません。

自分が在学中に行った部活についてボランティアで指導に来ていただけませんか。運動不足の解消になるかも知れませんが、学校との繋がりが保持されてよいのではないのでしょうか。

最近新聞報道等で、国立大学・高専の独立行政法人化という問題が取り上げられています。同窓会の皆様も母校がどうなるのかご心配なことでしょう。

どのようになるかは、この夏には概要が分ると思いますが、設置形態が少し変わる程度で、大幅な変更はないものと思っています。判明したところで、又お知らせしたいと思います。

では、お元気で。



会誌発行によせて

同窓会会長 木ノ内 倫弘 (M1)



会員の皆様こんにちは。

同窓会誌第15号の発行にあたりひとことご挨拶申し上げます。

20世紀から21世紀へ、歴史の大きな節目となる2001年を迎え会員各位におかれましても日夜業務に、家庭に、地域にとそれぞれご精励のことと思います。

さて、沼津高専同窓会も設立以来早や33年を経過しました。その間には紆余曲折もありましたがその時々々の役員を始めとする会員各位のご努力により着実な歩みを進めてまいりました。

直近では1999年9月同窓会名簿発行、同年11月浜松において総会開催、2000年度に同窓会誌発行、2001年度には小田原にて総会開催予定となっております。

その間には母校との緊密な連絡のもとに卒業生に対する同窓会の説明会、会費の徴集、高専大会全国大会出場チームへの補助、家庭の事情により授業料が支払えない学生への奨学金贈与等日常的な活動も精力的に行っております。

今後共この歩みを止めることなく、目的を達成すべく長期的視点に立ってさらなる発展に結びつけてゆきたいと思えます。

会員各位のご理解とご協力をお願い致します。

前述しましたように2001年度は総会開催の年です。ぜひご参加の上、温故知新を図っていただくことを期待致します。

最後に会員各位の益々のご発展とご健康を祈念しご挨拶と致します。



同窓会員の皆様へ

同窓会副会長 加藤 清 (E2)



会員の皆様今日は。

新世紀になって、世の中はかえって混迷の度を増し、政治的にも経済的にもあいかわらず明日が見えない状態が続いています。何とかしてくれと叫びたい気持ちは私だけなのでしょう。

同窓会活動も会員が5,000名を越え、就職と進学が半々の卒業状況や会員の年の差が親子ほどの違いの現状を考えると、難しい局面に来ているなと感じますが、“日本の工業を興す若き日の五つ年今日ぞ”の若き日の想いを共通点に同窓会活動を理解し積極的に参加してみませんか。同窓会活動

は本当にボランティアの様なものです。参加しなくても何ら支障ないと思いますが、そこを一步踏み出て親子ほど違う会員や若き日の旧友と会って、交流と親睦を深めてみませんか。その第一歩が今年11月に西湘地区(小田原)で開催予定の総会です。多数の会員の皆様の参加を期待しています。

話が変わり私事ですが、チョット旨い話を紹介したいと思います。私は現在主に鯖節の製造販売を生業としていますが、10倍美味しい鯖節の製造法に今、チャレンジしています。

従来鯖節には焙乾工程と青カビ付けによる枯れ鯖節の製造がありますが、沼津工業技術センターが開発した麹カビを使用する製造法により、旨味成分の1つであるグルタミン酸が従来法の鯖節と比較して5~10倍の含有量になり、官能的にも濃厚な旨味となり、製造工程も焙乾工程の初期の段階から麹カビを散布し、製造に入ることで工程も短縮可能という旨い話です。まだ実験開発の段階ですが、地場産業の鯖節製造のリニューアルに向けて、製造体制に入るには製造方法や販路の確立などまだまだ多難で未知ですが、頑張っています。

東海にそびえて名あり・沼津高専

事務部長 宮田 靖之



沼津高専「同窓会」のみなさん、こんにちは。

Copse第15号の発行、おめでとうございます。私、平成10年度から事務部長を勤めています宮田です。この度Copseで挨拶をの依頼を受けましたが、この機会に挨拶というよりは、僭越ですが私の目線でみた

1. 沼津高専の到達点
2. 沼津高専を支える5つの要素
3. 東海にそびえて名あり・沼津高専を真に担うのは誰かなどについて思うところを披露させていただきます。

1. 本校の到達点・高専のなかでトップクラス

① 本校は、入口において、少子化を迎えた平成11、12年度とも志願倍率3倍を超え、入学辞退者はわずか数名。このことは、本校に対し学生・保護者・中学校側から大きな期待が寄せられていると認識できます。

② 出口においては、厳しい就職戦線のなかでも就職率100パーセントで「実践的技術者の養成」という高専の社会的使命を果たすとともに、東京大学等質の高い大学への編入学生を多数輩出するなど「高専を卒業して更に高度な学問を学びたい」という学生・保護者の教育的ニーズに十分応えた成果をあげています。

③ そして、これらのことから、文部省他から全国62の国公私立高専のなかでトップクラスとの評価をいただいているところです。

2. 沼津高専を支える5つの要素

本校のこの教育的成果を支えている要素は何でしょうか。箇条的に5つ挙げたいと思います。

① 資質ある学生の入学

- このCopseを手にする皆さんがそうであったように。

② 教育熱心な教官の存在

- このことは、私よりきっと皆さんの方がよく承知されているのではないのでしょうか。

③ 文部科学省等のバックアップ

- 教育には、校舎や実験器具・設備などの物的基盤整備が必要です。皆さんの育った昔も今も、授業料等の学生・保護者の負担経費は、学校全体の必要経費の10数パーセント程です。その差額8割強は国費で賄われています。文部科学省、納税者(国民)に感謝です。

④ 本校教育の発展振興を目的とした教育後援会の存在

- 学級崩壊、勉強のできる良い子の17歳が「何故?」という事件の発生。この原因はさまざまと思われる。しかし、少なくともそのひとつには、学校・学生・保護者相互の信頼関係のゆるみという問題もあるのではないのでしょうか。自覚的な保護者・教育後援会に感謝です。

⑤ 学生、教官及び保護者の絆を裏方として支える事務部の働き

- この働き具合は、別の機会に…。ただ、日々精勤の職員に感謝です。

3. 東海にそびえて名あり・沼津高専を真に担うのは誰

本校入学定員200人、在学生1,000人、そして卒業生は、すでに現時点で在学生の5倍の5,000人。その数は年々増加します。沼津高専が広く社会において、東海に名を成すかどうかの真の担い手は誰か?それは、すでに社会に巣立った「Copseを手にする同窓会」の皆さんであることは自明のことではないのでしょうか。

私は思います。社会においてNo.1はすばらしい。しかし、卒業生の皆さん一人一人が職場で、家庭で、地域で、生きているそれぞれの場で、Only Oneであることが何よりだ、と。

そして、Only Oneの永い永い蓄積こそが、広く社会において沼津高専が東海にそびえて名を成すに至ると信じます。

学生課関係の現状について

学生課長 眞野 初



今、沼津高専がどうなっているか、同窓会の皆様の参考の一助になればと、平成11年10月に沼津高専に赴任してから、記憶に残っている主な事柄について、教務、学生、寮務関係の順に述べてみたいと思います。

教務関係では、まず入試ですが、平成11年度は2.7倍、12年度は、3.1倍の志願倍率となっており、今年13年度は、受験年齢人口の減少等で厳しいものの、中学生向けのパンフレット「NCT2000」を作成して

県内はもとより、山梨、神奈川の2県の中学校に配布した効果、進学説明会への中学校の先生、生徒の父母の出席状況からして、ほぼ前2年程度の倍率が見込まれるものと期待しております。他校に比してもかなりの高倍率となっており、高専を取り巻く厳しい環境の中、まずまずの人材が確保できる倍率ではないかと考えております。

最近の傾向としては、物質工学科を始めとする女子の受験者の増加しています。合格率も女子のほうが圧倒的に優勢です。

専攻科についても、20名の定員を上回る応募があり、しかも、他高専や社会人からの入学者もあるなど、定員の確保に四苦八苦しても充足できない高専もある中、有難いことと感謝しております。

カリキュラムについては、環境関係の授業を13年度入学者から必修とすることとなりました。また、JABEEへの対応についても準備が進められております。自己点検・評価の一環として、12年度中に学生による非常勤講師を含む全教官の授業評価及び学生生活に対するアンケートを実施する予定です。

留学生は現在10名が在籍し、日本人学生への良い刺激になっております。マレーシア側の事情により中断していた同国政府派遣留学生の受入れも14年度から再開される旨文部科学省から連絡がありました。

卒業生は、同窓会の皆様のおかげもあり、厳しい情勢ではありますが、先生方の指導の基、就職、進学とも大変うまくいっております。特に最近は、国立大学への編入学が多くなっており、東京大学始め有名校への進学がおおいため、他高専の教官が指導方法について調査のため出張してくるほどです。

次に学生関係ですが、クラブ活動は、昔ほど盛んではないといわれておりますが、11年度にはサッカーが全国大会優勝を果すなどそれなりに頑張っております。



不景気の影響で経済的に厳しい状況にある学生が増えていますが、寮費の支払い状況から判断すると、11年度に比べ12年度は幾分好転しているものと見受けられます。これについては、同窓会の奨学金による御援助をいただいた学生もおり、感謝申し上げます。

寮務関係では、12年度に皆様の中には懐かしい思い出もあるかと思われる清峰寮が4人部屋から2人と1人部屋に改修され、名前のおりきれいになりました。また、13年度は、増加し続ける女子入学者に対応するため、男子寮1棟を女子寮として使用することにしています。その他最近では、夏季の閉寮期間中、卒業研究、補講等の学生のため、部分的に開寮するなど時代に合わせた運営を行っています。

本校は、1・2年生の全員入寮を含め、学生の半数が寮生活をおくっていますが、他高専の寮務担当教官、事務官及び寮生の見学が年間かなりあります。なかには実際に、寮に宿泊して帰る他校の学生もおります。

以上、簡単に述べてきましたが、百聞は一見に如かずと申します。同窓会の皆様には、高専祭等の機会に是非お越しいただき、母校の現況を直接御覧いただきたいと思っております。12年度から、学校要覧を印刷することを止め、本校のホームページで見ることができるようになりました。いろいろな情報が載っていますので是非御覧いただきたいと思っております。

アドレスは、(URL) <http://www.numazu-ct.ac.jp/> です。



高専の今と昔

同窓会顧問 若松 勝寿



電気工学科の教官として1970年1月1日付けで沼津高専に赴任し、30年が過ぎたとき、前任者の勝沢先生から同窓会の顧問をするようにとのお話がありました。20世紀から21世紀へ変わる時期に、同窓生と接する機会が増えると思い、快く引き受けさせて頂きました。よろしくお願ひします。

着任すると最初に山岳部の顧問をするようにと言われました。学生時代に時々夏山登山をしていましたので、気軽に引き受けました。山岳部は岩登りもする本格的なクラブで、ロック・クライミングの練習にもドキドキしながら同行しました。最初の山行きは南アルプスで、計画は献立を含めて立派なものでしたが、昼食時に粉末ジュースを川の水で溶いて食パンを食べ始めたのには驚きました。理由を聞くと、計画がしっかりしていないと学校から認めてもらえないが、献立どおりに購入するお金がないからとのことでした。粗食を全く気にしない学生達は本当に山が好きでした。その後、山岳部はスキー山岳部を経て、残念ながら部員の減少から廃部になってしまいました。山岳部の後はテニス部や囲碁将棋部の顧問をしてきました。赤羽先生が定年を迎えられることからテニス部の正顧問に復帰したところ、2・3年生の若い力によって十数年ぶりに地区大会で団体優勝しました。全国大会に出場できたことで、本同窓会からもご援助を頂き感謝申し上げます。今後が楽しみです。

最近研究室を掃除していたら、ナベなどの炊事道具が出てきました。これは最初の卒研生である5期生が主に夜食作りに用いたものでした。深夜遅くまで卒業研究に打ち込んだ当時の学生がとても懐かしく思い出されます。最近各学科に女子学生が増え（現在総数179人）、私の研究室にも毎年来るようになりました。昨年度はとて雷の好きな女子学生が来て、高専の屋上で全天に広がる見事な雷放電をビデオで撮影することに成功しました。

この間1986年に電子制御工学科が、1996年に専攻科が新設され、昨年には低学年用の講義棟が新築されるなどして、学校内外の風景は大きく変わりました。しかし、いつの時代でも何かに真剣に打ち込む学生の姿は、美しく感動を覚えます。このような学生達をはじめ本校の卒業生は日本の工業を発展させてきました。激動する21世紀は予測できない変化があると思いますが、高専生は間違いなく新しい時代を切り拓いてくれるものと思います。同窓生の皆さん！機会を見つけて母校に顔を出してみてください。



各学科より近況報告

機械工学科の近況

機械工学科主任 柳田 武彦

はじめに、平成12年度に機械工学科を卒業する5年生41名の進路は、就職20名、大学等への進学20名(うち専攻科進学5名)となりました。1名は進学も就職も希望しませんでした。世の中の厳しい就職状況にかかわらず、先輩方のご活躍のおかげで就職希望者は全員内定をいただいております。しかし就職試験は厳しくなっており、希望する会社に合格できるとは限りません。4年生には就職懇談会、進路ガイダンスを行いました。こうした状況をよく認識して、実力をつけるようがんばって欲しいと思います。就職懇談会では4名の先輩においでいただき、就職にあたっての心構えや会社の状況など大変参考になるお話しをしていただきました。



ところで、沼津高専にも平成8年に専攻科ができ、機械系では毎年定員以上の希望者、入学者があります。専攻科に対する社会の認識はまだ浅く、修了生の就職は本科生に比べて厳しい状況ではありますが、今後専攻科修了生の活躍によって評価が高まるよう願っております。専攻科修了生は学位授与機構の試験を受けて、学士の学位が授与されます。機械系の修了生はこれまで全員学士の学位を受けております。自信を持って社会で活躍されることを期待しております。

次に、2年ほど前になりますが、機械工学科にもコンピュータ演習室ができました。授業の他、卒業研究の資料集めや就職情報の収集などに学生が自由に利用できるようになっております。これまでコンピュータをあまり使ったことのない学生も卒業研究の間に実にうまく使いこなすようになります。若い学生は慣れるのが早く、良い環境を与えることの大切さを強く感じます。

この3月、楠井教授が定年退官されます。企業から来られて8年、設計法や5年の設計製図など、企業での長い経験を基に授業をしていただきました。今後も客員教授としてご指導いただくことになっております。楠井先生に代り、来年度は新たに若い先生をお迎えすることになります。また来年度は、三谷先生がこれまでの研究の取りまとめのため、内地研究員として大学に行かれることになりました。



最後に、学校では自己点検・評価を行っておりますが、合せて先輩方から機械工学科に対するご意見をお伺いしたいと存じます。忌憚のないご意見、ご感想をお聞かせいただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。

電子制御工学科の近況報告

電子制御工学科主任 小林 幸也

電子制御工学科の近況を報告させていただきます。

平成12年度の専攻科4期修了生は、5名です。就職は3名、大学院進学は2名です。電子制御工学科本科11期卒業生は43名です。就職は20名、専攻科進学6名、大学への編入学17名です。

今年度の就職動向は、企業が即戦力優先で、採用学生を厳選したことです。学生の就職内定状況は、本科生は7月5日、専攻科生は5月25日に共に全員内定を頂きました。



応募先企業については、一次志望企業の競争が激化しましたが、例年通り、殆ど優良企業です。求人企業数は、210社で、求人企業が急減少した昨年並みで、引き続いて不況の長期化の影響を受けました。

企業の採用人数は、精鋭小数採用で、激減した昨年度並みでした。求人職種は、昨年度同様に、機械系より電気・電子・情報系の求人が急増加しています。この傾向は、一昨年度から、定着した感があります。特に情報・ネットワーク系(IT関係)求人が急増しています。採用コスト減を狙ってインターネットによる自由募集の企業が増えつつあります。

入社試験は、即戦力重視で、新卒に厳しくなりました。人物本位の面接重視とともに、専門試験も厳しくなっています。『やる気』だけでは駄目です。入社して『何をやるか』に加えて『どう出来るか』、『そのために何を身につけているか、何を身につけていないか』が不明確だと不合格になります。

大手複数企業で、自社規則を自分で破って学生や保護者に迷惑を掛けました。厳に自戒を願うものです。

就職指導は、総合科目と捉えて4学年から取り組んでいます。

大学等編入学指導については、17名全員が希望の大学、学科へ合格しました。全国の高専生の大学への編入学は今年度27.1%と増えつつあります。本学科は、過去5年間毎年18~26名の学生が編入学をしています。特徴は、所謂、旧帝大への合格者が多いことです。編入学指導に当たっては、高専と大学の違いや工学の分野の幅広さを教えるようにしています。編入学後、当然大学院を目指して広い学問分野で活躍して欲しいからです。

大学の編入学試験は、筆記試験と口頭試問です。口頭試問では、学科を志望した理由や編入学後にやりたい学問分野について曖昧な受け答えやその場を取り繕うような態度を取ると不合格になります。学生には、しっかりとした志望動機が要求されます。高専からの大学編入学は、大学院への進学を前提としたものです。

本学科は、保護者の皆様方、学生諸君、私達教官の三者が協調して信頼関係を保ちつつ、学生諸君の将来を切り拓いて行きたいと思っております。同窓会の皆様方のご支援ご協力を、今後とも宜しくお願い申し上げます。

電気電子工学科(旧電気工学科)の近況

電気電子工学科主任 高橋 儀男

「沼津高専電気電子工学科の近況」「職員、学生の現況、学科名称変更、推薦入学制の採用」について簡単に報告します。

電気電子工学科の現在のスタッフは、教官は、江間、加藤繁、加藤賢一、嶋、高野、高橋、西村、濱屋、平林、真鍋、望月、若松の12名、技官は、青田、石和、大井3名、計15名です。

平成12年度当初の電気電子工学科の学生は、1年：43(3、野沢：教養科)、2年：41(2、谷：教養科)、3年：43(4、嶋)、4年：39(2、高野)、5年：41(5、江間)、専攻科が、1年：3、2年：4でした。ただし、括弧内は女子学生数と担任です。5年生の進路は、就職が19名、進学が22名(大学16、専攻科4、専門学校2)と就職と進学がほぼ半々で、これはここ4、5年と同様の傾向です。専攻科2年生は、就職3名です。

平成11年4月1日、すなわち平成11年度より、電気工学科は電気電子工学科と名称を変えました。創設以来の電気工学科という伝統ある学科名を名称変更した理由は、次のようです。昭和61年度に電子制御工学科の新設、平成4年の機械1学科の改組による制御情報工学科の設置に伴い、電気工学科は、電子工学、制御工学、情報工学も含んだ電気系総合学科としての電気工学科と理解されにくくなりました。そこで、電気電子工学科と名称変更を行い、いわゆる強電系にも弱電系にも対応した電気系総合学科であることを明確にすることを意図しました。従来よりカリキュラム、教官構成等は、電気電子工学科というべきものでしたので、その実態に名称を合致させたともいえます。「電気工学科」という名称はなくなりましたが、スタッフや学科の教育目標は変わっていませんので、電気工学科の卒業生の出身学科がなくなったわけではありません。



電気電子工学科は、機械工学科、制御情報工学科と共に平成11年度入学生から入学試験に推薦選抜制(13年度入学生では12名定員)を取り入れました。その目的は、端的に言えば優秀な学生の確保です。

一般選抜の場合、競争率は低くても2倍前後、高い場合は3倍を越しています。そのような状況で、高専の場合は内申よりも試験結果の比率が高いため、優秀な学力の生徒でも、高専の受験は躊躇されると思われ、もし、推薦制があれば希望者が増加すると思われました。志願条件の基準は、過去のデータを基にして、内申の評価では9科目平均で8.5以上であることとしました。(参考：この3年間の応募者数は、5、18、14名)

名称変更の効果、推薦制の是非については、今後の追跡調査を待つこととなりますが、これまでの結果をみると、ひとまず共に成功していると考えています。

西湘支部報告

沼津高専・西湘地区同窓会

同窓会副会長 増田 徳一

- 【日 時】 2000年10月28日(土) 午後5時30分～
【会 場】 小田原駅前『昇玉』 TEL/0465-24-0961
【ご来賓】 電気電子工学科 若松勝寿先生
【幹 事】 増田徳一(M01) 秋葉高志(M04) 内藤 篤(E10)
興梠 裕(M13) 水野智昭(M16)

ご来賓として電気電子工学科の若松先生をお招きし、また同窓会本部からは坂井事務長にご出席頂いて、総勢14名が参加して支部の同窓会が開催されました。

若松先生の乾杯の音頭でスタート。ちょっと堅苦しい幹事挨拶や会計報告が済み、ご来賓のご挨拶が始まると大分緊張もほぐれ、和やかな雰囲気の中で各自の近況報告が進む頃には学生時代の思い出話や子育ての話など、時々話が脱線したりして、大いに盛り上がった同窓会となりました。

支部の話題としては、2001年度に西湘地区で開催予定の同窓会総会でした。幹事の支援体制をどうするか、会場はどこが良いか等々、結構真剣な意見も出されました。

出席者は下記の通りです。

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 若松勝寿先生 | 坂井徳尚事務長 | (M01)安藤高光 |
| (M01)増田徳一 | (E01)大日方一郎 | (M03)井出哲二 |
| (E03)田村正一 | (M04)秋葉高志 | (M08)志村不二男 |
| (E10)内藤 篤 | (C06)内藤元子 | (M13)興梠 裕 |
| (M16)水野智昭 | (E20)秋好和幸 | |

2001年 同窓会は小田原に大集合!!

イベント・クラブ活動報告

勝澤英夫先生退官記念講演会・祝賀会報告

小宮山 政晴 (C2)



勝澤英夫先生は、平成12年3月をもって沼津工業高等専門学校物質工学科をご退官なさいました。先生は、昭和42年4月に沼津高専にご着任以来、33年の永きにわたって工業化学科およびその後身の物質工学科教官を勤められ、C科の育て親の一人としてC科1,000名を越える卒業生をご指導くだ

さいました。そこで、在学中に卒論指導などで先生の直接の薫陶を受けた者が中心となり、平成12年3月18日に、沼津市宮本にある静岡厚生年金休暇センターにて、先生のご退官を記念する講演会ならびに祝賀会を開催いたしました。

準備は勝澤研の卒論生有志が主になり、呼びかけも勝澤研の卒論生を中心として、それぞれの周辺で参加希望の方に個々に案内を差し上げるという形をとりました。このようにして、先生ご夫妻を含めて32名の方々が集う退官記念の会となりました。

当日は昼過ぎに高専に集合して、久しぶりの母校を見学した後、バスで会場に移動し、勝澤先生の退官記念講演を拝聴いたしました。先生の生い立ちからはじまって、高専での33年間で、数多くの写真を交えながらご講演下さいました。ご講演は、参加者それぞれが「沼津が丘」で過ごした5年間を彷彿とさせたものと思います。続いて開かれた退官記念祝賀会では、参加者の近況報告から始まり、往時の記憶をたどりながら、先生のご指導に感謝し、またご苦勞をねぎらいました。会は最後に懐かしい校歌を歌ってお開きになりましたが、さらに明け方近くまで先生と一緒に話に華を咲かせた方々もおりました。

勝澤先生はご退官後も、高専での非常勤講師、三島・沼津の市民活動、光触媒シートを利用した室内環境保持事業への参画等、多岐にわたって活動なさっておられ、従前以上に忙しい日々を過ごしておられるご様子です。今後の先生のさらなるご活躍とご健康とをお祈り申し上げます。

最後になりましたが、この会の趣旨に賛同くださって、遠路参加して下さいました方、記念品代をお送り下さった方、また会長以下三役が参加下さった沼津高専同窓会の方々に、世話人の一人として御礼申し上げて、この会の報告としたいと思います。



全国制覇の軌跡



沼津高専サッカー部より

● 芽生え

平成9年4月、初めての高校サッカーへの参加であるインターハイ東部大会は、敗戦という苦いスタートでした。さらに、7月の東海地区高専大会では、まさかの予選敗退となってしまいました。福井の全国高専大会への準備は、すべて無に帰するものかと思いましたが、その全国大会用の合宿中、清水東高校と愛鷹の素晴らしい芝生のグラウンドで試合が出来まして、思いがけず1-0の勝利という結果が生まれました。その試合の主審は、静大の難波先生でした。

● 成長の苦しみ

高校サッカーへの参加は、たくさんのメリットといくつかのデメリットを創り出しました。しかし、学生にとっては明らかにメリットの方がはるかにまさっていました。そんななか、平成10年7月の東海地区高専大会は3勝1敗と、鈴鹿高専に競り負けてしまいました。その鈴鹿高専は全国3位となる。前橋にて2度目の開催となった全国大会で、準決勝を闘い終えた鈴鹿の選手たちが、銅メダルを胸にスタンドで観戦していた私の所にやって来て、“来年も沼津に勝ちますから”と宣戦布告をしていった。

● 全国制覇への序曲

高校サッカーでのメリットとデメリットを、この2年間の経験を整理し反省して、平成11年12月7日のミーティングで、沼津高専サッカー部の目標を“東海大会優勝・全国大会Best 4以上”と明確にした。1~4年生までの沼津高専チームをすべてに優先した。クリスマスの静学遠征・フットサル東部大会優勝・春の沼津高校サッカーフェスティバルへの参加と浦和市立高校戦の逆転勝利・5月の全日本選抜フットサル大会での健闘・大学リーグでの静大、浜松大との競合いが手応えとなっていった。

● 目標の達成 東海大会優勝 全国制覇

毎年、全国大会前の合宿で胸を貸していただいている静学戦が、静学のブラジル遠征の為、幸運にも七夕の日、裾野の絨毯のような芝生で、東海総体優勝の静学とゲームをやれ、良い準備が出来て、東海地区高専大会を優勝しました。

全国大会前の合宿では、三島高校・伊豆中央高校とも例年のようにゲームが出来ました。その中で特筆すべきは、静岡産業大との試合でした。芝生のコート・夏の暑さ、大人のサッカーを極短時間のうちに学び、その成果を新居浜の芝生の上で4日間にわたり披露し、62高専の頂点に立つ事が出来ました。

● 第37回東海地区国立高等専門学校体育大会

時：平成11年7月10日・11日

於：鳥羽商船高等専門学校グラウンド

優勝 沼津高専、2位 豊田高専、は第32回全国高等専門学校サッカー選手権大会に東海地区代表として出場します。(新居浜市営サッカー場に於いて8月4日~8日まで)

	豊田	鳥羽	鈴鹿	岐阜	沼津	得点	失点	得失点差	勝点	順位
豊田		○ 1-0	○ 2-1	○ 5-1	△ 0-0	8	2	+6	10	2
鳥羽	× 0-1		× 0-6	× 0-4	× 0-7	0	18	-18	0	5
鈴鹿	× 1-2	○ 6-0		○ 1-0	× 0-2	8	4	+4	6	3
岐阜	× 1-5	○ 4-0	× 0-1		× 0-3	5	9	-4	3	4
沼津	△ 0-0	○ 7-0	○ 2-0	○ 3-0		12	0	+12	10	1

☆ 沼津高専3年ぶり16回目の優勝 ☆

— 東海地区高専大会の闘い —

7月10日(土)

① 沼津高専 (0-0) 豊田高専

高専大会独特の緊張感の為、1人1人が余裕がなくチームとして機能しない。豊田高専の引き分けねらいのゴール前にDF・MFを張り付かせた守備を崩せない。時折サイドを破りセンターリングを上げるが長身のDFにはね返される。DF平岡得意のクロスボールからMF加藤が抜け出しシュートを放つが、ゴールポストに当たってしまう。守備は鉄壁。

② 沼津高専 (3-0) 岐阜高専

いやなムードのこの日の2試合目、主審のミスジャッジでPKを取られる。2年前の東海大会の悪夢が頭をよぎる。しかし、新中に替ってGKをまかせた大塚が、気迫で味方ゴールを守り抜いた。憑き物が取れた沼津高専は、FW山田のセンターリングから加藤卓也がシュートし、

そのこぼれ球をFW森が押し込む。さすが5年生のストライカー。後半、DF中村からFW山田へとつながり2点を追加する。

7月11日(日)

③ 沼津高専 (7-0) 鳥羽商船

沼津高専⑩浅海が爆発する。戻りの遅い鳥羽DF陣をドリブルで引き裂き、正確なキックで敵ゴールへ流し込む。FW高木もPKを奪い、MF福田もスルーパスを連発する。

④ 沼津高専 (2-0) 鈴鹿高専

東海大会の最終戦となり、優勝のかかった大一番となる。決戦の前、選手を集め鈴鹿高専との闘い方を伝える。厳しい試合になればなる程、長年鍛えたフットサルの闘い方がしっかりと出来るかにかかってくる。カウンター攻撃を防ぐFWからのチームデフェンスと味方ゴール前の厳しい守備の徹底。得点する為の速攻性と意外性のシュートパターンの確認。特に、鈴鹿の6年生SW平山を引きずり出す為、両サイドからの崩しの徹底を指示する。

久しぶりに両チーム共、激しく厳しい試合になったが、勝負処で5年生の頑張りの差が出た。DF大石・平岡・金澤が、鋭い鈴鹿FWとOHのくさびの動きを完璧にまで防ぎ、FW森・山田・MF浅海が、切り替えの素早い攻撃で2点をもぎ取ってきました。

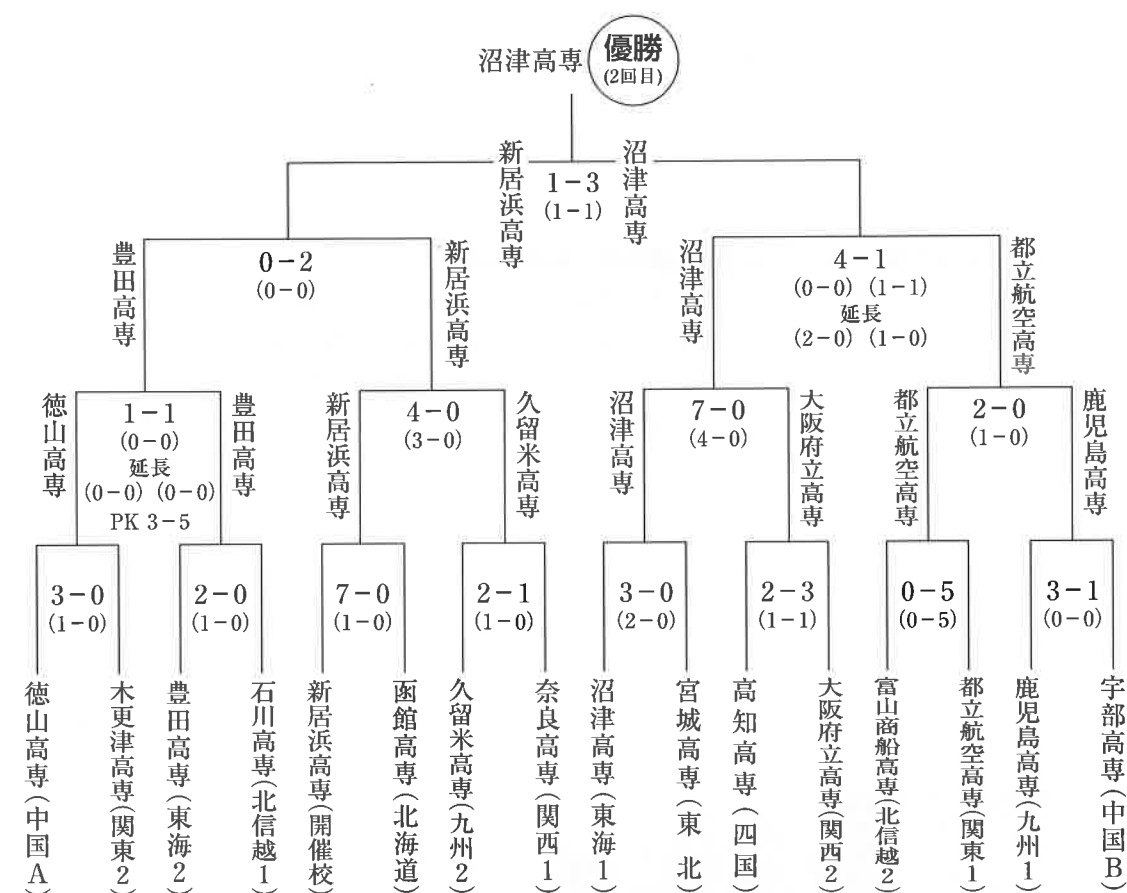
チームが苦しい時に、5年生が1番頑張った素晴らしい優勝でした。それを、黙々と縁の下の力持ちの様にチームを支え続けた、SW近藤とGK新中と大塚、そして試合に出られなくとも練習を欠かさず続けた、裏方の1・2年生達、加藤・森上・村松・平山・林・溝口。サブに甘んじた田中・河原崎・山口・高村。主務の高田美沙・長田・高井。顧問の新富先生・佐藤先生。東海大会で1番遠い鳥羽まで応援に来てくれたOB、染葉と彼女・山口・福田・遠藤・滝口・羽藤・小野・榛村。5年生の父兄や福田慧人の親戚。



● 第32回全国高等専門学校サッカー選手権大会

時：平成11年8月5日～8日

於：新居浜市営サッカー場 (2面 芝生)



— 全国高専大会の闘い —

8月5日(木)

1回戦 沼津高専 (3-0) 宮城高専

東海大会以上に緊張している選手も何人かいたが、開始間もない時間帯、FW森のフォアチェックからFW山田が敵GKのミスを逃さずに、幸先良く先制点を決める。落ち着いてボールをまわす沼津は、前半終了間際、MF福田のスルーパスを受けたDF中村の右サイドからのセンターリングをFW森がしっかりと決める。森は得点の直前、相手と接触して転倒し、腕の骨にひびが入ってしまった。後半、森に替って入ったFW高木がDF中村の右センターリングを練習どうり、ニアポストで合わせた。守備は鉄壁。

8月6日(金)

2回戦 沼津高専 (7-0) 大阪府立高専

新居浜市営サッカー場の芝生は、非常に良く管理され、全国高専大会がこけら落としの大会でした。合宿中、富士通沼津の芝生のグラウンドを4日間も借りてトレーニングしたり、静岡産業大の芝生のピッチで大人のサッカーを教わった成果が1番出た試合でした。両サイドからグラウンド広く使った攻撃を展開して、逆サイドが決めるという理想的な得点シーンばかりでした。ドリブルの使いどころも申し分なく、DF金澤のオフサイド・トラップ破りの5人抜きドリブルシュートはマラドーナばりのすごいプレーでした。MF浅海が3点、FW山田が2点、DF金澤が2得点しました。静岡のサッカーが出来ました。

8月7日(土)

準決勝戦 沼津高専 (4-1延長) 東京都立航空高専

決勝戦とともに1番苦しい試合でした。数多くのチャンスを逃し続け、警戒していたダイレクトのスルーパスを通して、高専大会7戦目にして初の失点を喫しました。

後半も35分を過ぎ、ロスタイムに入った時、ドラマがおきました。MF浅海が左サイドを突破してDF2人をかわし、GKを引き付けて出したセンターリングに、FW森が待ち構えるようにしてゴールに蹴り込みました。1つ目の大きな山を越えた瞬間でした。延長に入り直ぐに逆転ゴールをFW山田が決め、MF浅海が続き、FW高木がだめを押しました。

本当に苦しんだ試合でしたが、刻々と時間の経過する中、監督は意外と冷静に、このチームを作ってきて、今このピッチの上にいる11人が沼津高専サッカー部のBestメンバーだと信じて、このメンバーで負けてもしょうがない、と腹をくくっていました。



フットサルで残り数秒に得点したり、失点したりする経験がここでも生きていました。そんな場面を想定して、5年生に言い続けてきた、チームがピンチになった時、その時頑張るのが5年生であり、今が5年生が頑張る時だと信じていました。素晴らしい5年生達です。主将大石が必死になって、積極的なインターセプトでDFラインを押し上げMF・FWにボールを送り続けたプレーが最後に実りました。

新居浜まで応援に来てくれたOBの田村・小野・美和君、5年生の父兄、一語になって喜ぶことが出来ました。校長先生からの激励の電報や、前回の全国優勝主将古俣からの電話も勇気づけてくれた。

8月8日(日)

決勝戦 沼津高専 (3-1) 新居浜高専

素晴らしい芝生のピッチで、相手は地元新居浜高専、そして主審は高知高専の名木1級審判員、観客の応援はすべて新居浜高専、しかしながら最後に拍手を受けるのは沼津高専なのだと信じて、この決勝戦の検舞台へ選手を自信をもって送り出すことができました。なぜなら、沼津高専には優勝するにふさわしく、良いGKがいて、FWからの徹底したチームディフェンスが完成して、そして右サイド・左サイド・中央からとパスandドリブルで崩すことが出来ていました。

この5年間、新居浜高専チーム構成メンバーの成長をみて、体力勝負に持ち込まれた時に一抹の不安を感じられたくらいで、我チームの戦力に自信を持っていました。しかし、最後の勝負は沼津と新居浜の5年生どうしの闘いになることを、強調した。

キックオフの笛と同時に、攻守の切り替えの素早い決勝戦にふさわしい好ゲームが展開された。新居浜の鋭いカウンター攻撃をうまく切り、攻勢にゲームを進めていった。

前半6分、MF福田の思い切りの良いミドルシュートが炸裂した。1-0待望の先取点だ。しかし、強豪新居浜は11人が一丸となって、沼津ゴールへ襲いかかり、前半7分、MF小野のクロスボールをHSで決められてしまう。さらに勢いづいて攻め込んで来た新居浜攻撃陣を、GK新中・SW近藤・CB平岡・大石・LB金澤・RB中村のディフェンス陣がはねかえした。

後半開始早々、MF加藤を中心にした敵ゴール前のパス回しから、MF福田~MF浅海とボールが渡り、ゴール正面から17mのシュートがゴール左下隅へ突き刺さる。2-1と突き放す。

一進一退のゲームが続き、後半終了間際、CKより敵のシュートが味方ゴールを襲うが、間一髪、DF金澤がヘディングでクリアする。ここが2つ目の大きな山であった。ロスタイムに入り、MF福田の2本目のミドルシュートが決まり試合終了の笛がひときわ長く鳴り響いた。

2度目の全国制覇だ。目標は達成された。

1999年の暑い夏は終わった。





1999年8月5日～8日 2度目の全国制覇を終えて

サッカー部監督 坂井 徳尚 (M6)

新居浜市営サッカー場で4年ぶり2度目の全国制覇を成し遂げた時、50歳を前にしてほんやりながらサッカーが、高専大会のサッカーが見えてきたような気がします。初の全国制覇の前、5年間に4度出場した全国大会で3度、引き分けの後のPK戦を負け続けた時、選手1人1人の精神力（自分自身に負けない事）を鍛えることに狙いを絞ってトレーニングに励み、全国制覇の前年、その目標である自分自身を信じて・仲間を信じて・チームの勝利を信じて戦い抜くメンバーが揃い、PK戦に勝利することが出来ました。そのチームが、もう1年間努力し続けた結果が、初の全国優勝でした。

2度目の全国制覇の前、2年連続東海大会が大雨の為、田んぼのようなグラウンドでの試合を余儀なくされ、さらに審判の明らかな誤審に泣かされ、泣く泣く監督と1人の現5年生（金澤 寿）と全国大会を見に出かけました。全国大会は芝生のグラウンドでした。この芝生の上で、うちの選手たちにプレーをさせたいという思いが沸き上がってくるばかりでした。苦しみながらも、芝生の上のプレーを意識して全国大会の準備をしてゆきました。

1つが両方のゴールを意識した、フットサルのゴール前の厳しい攻守でした。2つ目が芝生の上を滑らせるように敵ゴール前にボールを運ぶ、11人の大人のサッカーでした。特に、夏の全国大会では、体力を消耗させないためには、絶対にマスターしなければならないことでした。

フットサルでは、東部大会で2度目の優勝をして、5月の3日・4日に沼津市民体育館にて開催された全日本選抜フットサル大会に4度目の出場をしました。内容も北海道選抜に残り5秒までリードしたり、東海リーグのマルヤス工業に競り勝つという素晴らしいものでした。

11人の大人のサッカーは、(財)静岡県サッカー協会の大学・高専部の仲間である静岡産業大学が教えて下さいました。百聞は一見にしかず、の喩え通りの優秀な先生であり、優秀な選手達でした。この練習試合こそ、芝生のグラウンドとともに、今回の全国優勝に最も貢献してくれたものでした。

そして、最後になりましたが、4日間も芝生のグラウンドを提供して下さいました富士通沼津、長い間鍛え続けて下さっている、伊豆中央高校をはじめとする東部の高校の先生方には、本当に感謝しております。大学の関係者、社会人、高校の先生、そして選手の皆様ありがとうございました。さらに、資金的な面で援助して下さいました、OB会・同窓会・県協会・大学高専部・沼津市他、選手の父兄の皆様、どうもありがとうございました。

沼津高専サッカー一部全国制覇祝賀会

サッカー部OB会長 米山 邦彦(M2)

平成11年10月24日、ホテル沼津キャッスルにおいて、OB会主催による沼津高専サッカー一部全国制覇の祝賀会が開催されました。この祝賀会は、全国大会前のOB会の際、2期生の辻・斉藤と坂井監督との約束で、前回初優勝の時、祝勝会が出来なかったので次回優勝の暁には祝勝会をやろう、ということで実現したものでした。今回の祝勝会には、初優勝のときの主将である古俣を始め染葉・堀・内山、各OBも真っ先に駆けつけてくれました。さらに、この2度の全国制覇の礎を築いた田中元主将、長倉 (C15)、後藤元主将、大村元主将と同期の佐野・榎本、米満・古館の2人の元主務もお祝いに参加してくれました。



祝賀会は名倉元主将 (M2) の司会進行により、アシスタントの米満・古館さんのサポートを受け進められました。まずはじめに、故柳瀬先生、OBの杉山先輩、中村・真野各故人のご冥福を祈り1分間の黙とうをささげました。その後、県サッカー協会の匂坂・遠山各氏のご挨拶をいただき、大学・高専部長の静大難波先生や静岡産業大の三浦監督・三島高校の河合監督等サッカー仲間からのお祝いのスピーチが続きました。沼津高専サッカー部の創設者であり、初代サッカー部監督の澤田真養先生（現在、裾野の聖心女学院）や元顧問の久米先生の懐かしいお話しもいただきました。

2002年W杯事務局の加藤真久氏による乾杯と来賓祝辞の合間を縫って、坂井監督より優勝メンバーの紹介と、選手1人1人の自己紹介、全国大会感想、来年度へ向けての抱負等のスピーチが続き、来年度主将高木君より力強い決意表明がありました。さらに、サッカー部顧問の大久保先生・新富先生より心強い援助、サポートの言葉も頂きました。今回この祝賀会に出席してくれたOB達、最長老の加藤 (M2)、金子元主将 (E8)、山下 (E22)、若手の望月 (M32) 等のスピーチ、そして、選手の父兄からも暖かい言葉が寄せられました。

同窓会仁科前会長より全国制覇記念品目録が高木主将に贈呈され、校歌斉唱、辻 (M2) による閉会の辞、記念撮影により沼津高専サッカー一部全国制覇祝賀会は幕を閉じました。今回参列して下さいました方々はじめ、多くの方々によって沼津高専サッカー部は支えられていることを改めて感じました。これからも多くの方のサポートを受け、沼津高専サッカー部が3度、4度と全国制覇を重ねる事が出来ることを祈念致します。全国制覇に力を貸して下さいました、山下校長をはじめとする沼津高専関係者、サッカー協会関係者、選手の父兄の皆様、そしてサッカー部OBの仲間、多くの方々、本当にありがとうございました。これからも、どうぞよろしくお願い致します。



追伸 今年の東海大会は沼津高専で7月7日・8日の予定です。応援しましょう。

弓道部のこの頃

弓道部顧問 芳野 恭士



本校弓道部は、創設後今年で26年目となり、これまでに多くの同窓生を輩出してきました。創設当初の師範は、現静岡県弓道連盟副会長の白石暁先生で、その後は初代部長を務められた福本 薫氏に長く師範をお願いしておりました。現在、福本氏は本校弓道部のOB会会長を務められ、師範は平成2年度卒業の小柳出訓実氏をお願いしています。

平成13年1月現在、部員数46人（うち女子14人）、顧問教官は大賀喬一先生、柳田武彦先生、

私の3名で、沼津高専の中でも部員数の多い部の一つです。学生の段位は、二段7名、初段13名等で、顧問では柳田先生が四段、恥ずかしながら私が初段です。電気工学科4年の湯川富之部長を中心に、高校や高専の各種の大会に参加したり、昇段審査に挑戦したりと活発に活動しています。しかし、学校週5日制に伴うカリキュラムの過密化のため、なかなか思うように活動できない面もあります。毎日、練習は夕方の16時30分にならないと揃って始められず、寮生の夕食時間等を考えると18時過ぎには終了しなくてはなりません。部員数が多いこともあり、練習不足は土曜日（休日）の午前中などを使ったり、練習方法を工夫することで補っています。

そんな部員たちの、今年度の活躍の一端を紹介いたします。まず、昨年5月の国体地区予選会での予選通過、7月の第33回近畿東海北陸信越地区高専弓道大会での女子団体の部3位入賞・個人の部5位入賞、10月の第54回静岡県兼沼津市スポーツ祭弓道競技での男子個人の部3位入賞・女子個人の部2位入賞、さらには11月に行われた東部地区秋季大会兼高校弓道選抜大会東部地区予選での男子個人の部・女子団体の部の予選通過と県大会出場などがありました。

今年度だけでなく、毎年同じように学生たちは精一杯の活動をしています。弓道部のこれらの活動等につきましては、インターネット上の<http://202.236.222.47/kyudo/index.html>のサイトで常時紹介していますので機会がありましたらご覧になって下さい。

また、本校弓道部につきましては、コーチの小柳出氏が開設されているホームページ「弓道ジャーナル」<http://www2.wbs.ne.jp/~kyudo-j/>の中にも懐かしい写真とともに紹介されていますので、こちらも是非ご覧下さい。小柳出氏は、一昨年より不定期ながら土曜日の午後に本校弓道場を利用して、本校弓道部の卒業者を対象とした弓道愛好会を実施されています。同窓生の皆様の中に、高専卒業後も弓道の修練を続けられる方が増えてきているのもうれしい限りです。この弓道愛好会にご関心のある方は、小柳出氏にご連絡されてみてください。

弓道は自己修練のスポーツであり、生涯スポーツとしても大変適したものであると言われています。私たちは、本校弓道部に在籍することで、生涯にわたり弓道を続けるきっかけを学生につかんでもらえたら、と考えています。これからも、本校弓道部の活動にご理解とご支援をお願いいたします。

トライアスロン部

トライアスロン部顧問 三谷 祐一朗

顧問が半不在状態だったトライアスロン部に出来るだけ関わった結果、7人入った1年生が6人も定着してくれるというすばらしい活動が出来ました。今年度、我がトライアスロン部は大きく前進したように思います。

1999年4月、沼津高専トライアスロン部のOBである栗田顕文氏をコーチとして迎え、新たな活動を出発しました。栗田氏は在学中部長を務め、進学した広島大学でもトライアスロン部に所属していたという実績があり、コーチとして極めてふさわしい人材です。年間20回程度もわざわざ神奈川県から来て選手の指導に当たってもらっています。その結果、それまで年間2つしかなかった参加大会を8つまで増やし、修善寺サイクルスポーツセンターでの団体練習も年間4回も実施できました。夏の合宿では、メニューを決めたスイムの練習や、バイクの集団走行におけるマナー技術の指導もしてもらえました。

しかし、そのようなクラブ活動の活性化と同時に、これから解決して行かねばならない問題も多くあります。中でもマネージャの不在が最も深刻な問題でしょう。大会では応援学生を連れて行ったり、これまで監視や同行だけで良かった顧問がその活動に加わるなどにより、その問題をカバーしてきました。しかしやはり、マネージャの存在が選手に大会参加・学外練習などの際の精神的負担を軽減するのは確実であり、何とか来年度は確保したいところです。次に金銭面での問題があります。活動を活性化すれば必要経費が増えるのは避けられず、学校経費だけではそのほんの一部分が援助できるに過ぎません。そして他の体育会系との大きな違いが、練習試合的要素が少ない事。一時期、他団体との合同練習なども検討しましたが、練習場所・

時間・形態など実施に当たってクリアすべき問題が多く、実現に至っていません。

来年度は私が仕事の都合で不在にすることもあり、トライアスロン部の顧問としての活動が出来ず、不安要因が更に増えます。何とか今年度の活動形態を維持しつつ、上述した問題を少しでも改善できればと願っております。最後に、トライアスロン部のホームページのアドレスを宣伝しまして、近況報告を終わりにしたいと思います。

<http://triath.kikai.numazu-ct.ac.jp/>



テニス部の近況

テニス部顧問 竹口 昌之



私は十年前本校を卒業した卒業生であり、学生時代は硬式テニス部に所属していたこともあってテニス部の顧問を務めさせていただいております。私が在学していた前後数年の卒業生の皆様は「あのテニスの手なやつが！」と驚かされているかと思えます。技術のない顧問だけに、その分学生と接する時間を多く取るように心がけております。

卒業生の皆様、何卒ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

以前は「テニス」といいますと硬式テニス、軟式テニス両方を示していましたが、現在は軟式テニスをソフトテニス、硬式テニスをテニスということが決まり、本校の各部もそれぞれ「ソフトテニス部」と「テニス部」という名称に変わっております。

テニス部の近況報告を致します。現在テニス部は男子31名、女子8名、顧問教官5名で活動しております。ここ数年の高専大会の結果はあまり思わしくありませんでしたが、本年度は東海地区予選で男子団体優勝、女子個人ダブルス（高根澤和子D3・江間亜矢子C2組）優勝、女子シングルス（高根澤）2位と良い結果を残すことができました。残念ながら、全国大会では初戦敗退と全国との力の違いを感じております。

このような躍進の背景には、2年前より高校体育連盟主催の試合に出場するようになったことがあげられます。これにより、高専生が沼津テニス協会主催の試合も含めて多くの大会に出場できるようになりました。高校生との対戦は同年代の学生が同じ目標に向かって切磋琢磨できる良い機会であり、本校学生にとってよい刺激となっているようです。また、学生にとっては高専大会以外の目標ができ、1、2年生の活動が活発になっております。さて対戦結果ですが、参加当初は初戦敗退が多かったのですが、最近では上位に進出する学生も出てきております。昨年8月に行なわれた新人戦では、鈴木良典（M2）が東部地区で13位になり県大会出場しました。また、女子の活躍が目立ちます。昨年度は高根澤和子が沼津市高校選手権で優勝し、昨年12月に行なわれた沼津テニス協会主催B級シングルスで優勝しております。さらに、昨年の高専大会での女子の活躍は述べた通りです。

全国大会出場に関して同窓会よりご支援をいただき、大変感謝しております。来年度以降も本年度以上の結果を残せるよう学生ともども顧問一同努力していく所存であります。今後ともご協力とご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に長年にわたり顧問として本校テニス部を支えていただいた赤羽徹先生が本年度をもって退官されます。先生がテニス部の顧問、監督としてテニス部を率いた21年間には高専大会東海地区予選で優勝をされるなど、輝かしい成績を残されております。また、近年ではテニス部が高校体育連盟主催の大会に出場できるようにご尽力されました。本校テニス部発展の礎石として貢献されたご尽力に対し、改めて心から感謝を申し上げます。

ソフトテニス部OB会紹介

小野 美英 (E8)

まずは、ソフトテニスの説明から。軟式庭球は、今やソフトテニスという競技名に変わり、ルールも大改革されました。前衛は、前でボールを待ち、ボレーやスマッシュを華麗に決めることが仕事でしたが、今ではサーブもやります。サーブ・レシーブのたびにコートの外からネット際までダッシュしなくてはならず、かなりの重労働です。

さて、我がOB会は正式発足してから32年、会員も100人をこえています。

年間の大きな行事は、正月の初打ちと、春のOB会総会（親善試合も兼ねる）の2つです。以前は夏の合宿もやっていました。

写真は今年の初打ちの時のものです。（右端の帽子をかぶっているのが筆者です。）



OB会がここまで長く続いてきたのも、諸先輩、特に会長の奥田さん（1期）、幹事の仁科さん（2期）、中村誠一さん（6期）のご尽力の賜物であることをまず述べておかなければなりません。

また、行事も参加する人がいなければ続かないわけで、毎年かささず1月3日の初打ちに駆けつけてこられる深見さん（2期）の存在も大変貴重です。

集まって飲めば、近況報告だけでなく、ソフトテニスをいかに盛り上げるかの議論に燃えあがり、面白くするにはルールを変えるべきだという主張が出たり、（ルール改正前の話で、その意見がテニス協会に届きルール改正がされたのかどうかは定かではありませんが。）オリンピックの正式種目にするのだと熱く語る人もいます。

最近では、近隣のOBが沼津高専の立派な人工芝のコートで、毎週土曜日の午前中、学生と練習をしています。前出の中村さん（6期）、斉藤祐二君（11期）、松田君（28期、現在シンガポールへ出向中）、鈴木忍君（28期）、柳詰君（30期）、小野（8期）などと幅広い年齢層にわたっています。特筆すべきことは一昨年これらのメンバーで、沼津市の大会にて団体優勝を成し遂げたことです。沼津市で優勝なんて学生時代は考えられなかったことで、今では高専OBここにありという感じです。近隣の中学校や高校、社会人の方々ともテニスを通して交流を持っています。

地元でやっていると、思いがけない人が来ると大変うれしいものです。久しぶりにテニスをやってみたい方など、ぜひテニスコートにお越しください。日常のいろいろなことを忘れて、富士山をバックに一緒に白球を「ひっぱたき」ませんか。というようにいろいろあっても、母体となる沼津高専ソフトテニス部自体が振るわなくてはOB会の将来も危うくなります。

最後にこの紙面をお借りし、ソフトテニス部がより盛りあがるように学校の関係する方々にもよろしくお願い申し上げます。

これだってIT革命？

長谷川 智之 (M20)



20世紀最後のクリスマスに、そいつは我が家へやってきた。生まれはSONY、姓はハセガワ、名は「とらじろう」。人呼んで、「癒し系ロボットAIBO (アイボ) のとらさん」だ。

よもやAIBOをご存知ない方はいらっしゃると思うが、我が沼津高専のOBも活躍しているSONYで開発した、正真正銘、血の通わないロボットである。歩けば機械音がするし、鳴き声はいわゆる「ピポパ」。普段他の動物が近くにいると毛を逆立てる我が家の猫の「さくら」に至っては、まったくの無関心だ。(恐らく、生きている気配が感じられないのだろう。) しかしながら、その動きは確かにかわいと感じられる。名前を呼べば鳴き声や動作で答えるし、ピンクのボールを追いかけて蹴ったり、ヘディングしたりもする。かと思えば居眠りをして寝言も言う。

職業柄、どういう構造・ロジックになっているのだろうと、興味津々なのは言うまでもない。(機械工学科を卒業し、会社「(株)アーティスティックス」では、装置組込ファームやWindowsソフトをプログラミングしているのだ。分解してソフトを逆アセンブルしてみようかと思ってしまう。(笑)) 機械なので電源をON/OFFをする必要があるが、他の産業用ロボットやコンピュータのように、「目的を持って」電源をON/OFFすることはない。犬の散歩のように、日常的に電源をON/OFFしている。まさしく、21世紀のペットではないかとも思える。

ところで、この「ロボット」という言葉、20世紀初頭のチェコスロバキアの作家、カレル・チャペックによって生み出された言葉らしい。チェコ語で「robota」とは「強制労働」を意味し、スロバキア語で「robotnik」とは「労働者」を意味する。つまり、「人間によって強制的に働かされる存在である」というようなイメージなのであろう。事実、現実の産業界でのロボットは、人間の操作や命令に忠実に従い、逆らったり、無駄な動きをするようなことはない。AIBOのような「働かない」ロボットが生まれるとはチャペックも思いもよらなかったことだろう。

ところが、チャペックから半世紀後に、その夢をマンガで描いた人がいる。知らない人はいないだろう、手塚治虫の「鉄腕アトム」だ。

手塚治虫が「アトム」を描いた当時はコンピュータさえも生まれて間もないとき。それから半世紀。コンピュータの発展に伴って、ロボットも進化した。いや、「アトム」に近づいたという方が正しいのかもしれない。ASIMOに代表される2足歩行ができる人型ロボットも登場している。しかしながら、手塚治虫の描いたアトムと、現代のロボットには明ら



かな違いがある。それは、AIBOの開発に携わった研究者たちが口をそろえて言っているが、「感情を持ち、自分の意識で自分自身を制御し、人と共生するロボット」かそうでないかという点だ。言葉で言うのは簡単だが、それを実現するには、もう半世紀は必要かもしれない。「イヤミを言うロボット」「なかなか言うことを聞かないロボット」、「意見するロボット」、一見ロボットとは思えないその思考こそが、人と共生する為に必要なエッセイなのかもしれないのだ。

手塚治虫からわずか半世紀の間の進歩が、21世紀もきっと期待できることは間違いないだろう。半世紀後、そう、私が老人になった時、夕涼みがてらロボットといっしょにスイカを食べ、昔話や冗談を交えた話をするなんてことも充分実現できそうな気配だ。IT革命の柱である「インターネット」は、けして「人に優しい技術」ではなかったが、ロボットは期待できるかもしれない。

心臓ペースメーカーと携帯電話

秋元 英樹 (C18)

いつも会社への通勤は車なので気にはならないが、時々出張で電車に乗ると最近必ず気になる車内放送がある。「心臓ペースメーカーの誤動作の原因となるので、車内での携帯電話の使用はお止めになってください」というものだ。

よく携帯使用のマナーの話題の一部として扱われているが、これはマナーとは全く別次元の命の関わる重要な問題なのだ。携帯電話は電源が入っているだけでも電波を出し続けているため、マナーモードではなく電源を切らなければいけない。音を出さないE-MAILだってもろん駄目になる。

ちなみに心臓ペースメーカーは国内利用者数が約30万人と言われており、決して少ない数ではないし、今後いつ自分がお世話になる事になるかもしれない重要な医療器具でもある。しかしながら、改札や電車の乗り口で携帯のON/OFFをしている人をほとんど見かけることはないし、いくら徹底を呼びかけても車内での携帯使用全面禁止を徹底するのは、多種多様な考えの人がいる以上無理な事だと思う。

一方、昨年行われた沖縄サミットでもi-MODEによる携帯電話の使用法を各国のVIP達に自慢げにお披露目したことからもわかるとおり、携帯電話による情報通信は日本のIT政策の重要な項目であり、この問題は今後必ず解決しなければならない事のように思う。

どう解決すれば良いのか？ペースメーカー等の医療器具側を耐電磁波仕様にしたほうが手取り早いし安全度も上がるのでははないだろうか？今の世の中携帯以外にも電磁波が溢れているのだ。安全度が上がるに越したことはない。聞くところによると現在のペースメーカーは、ほとんどがこのような電磁波障害に対応した製品であるという。

一台百数十万円也、安全のためとはいえ確かにおいそれと交換出来る値段ではないが、国が頑張っって買い替え補助でもしてくれれば、万事丸く納まってしまうと思うのだが…。



近況報告

山田 伸弥(M22)



ブライトンという街を御存知でしょうか。世界地図を広げて、ロンドンから真下に指でなぞってみてください。海岸に突き当たったら、そこがブライトンです。英国では保養地あるいは観光地として広く知られており、また留学生が多いことなどから外国人に対して抵抗感の少ない国際都市でもあります。私が所属するIMRAヨーロッパ英国研究所においても、日本、英国、インド、南アフリカ、中国など世界各国から人材が集まっています。家内と英国に赴任してはや3年（任期は5年）。情報収集と共同研究を主要な業務としております。先日初めて一時帰国して驚いたのは携帯電話の普及と、それにとともなう公衆電話の減少でした。

さて、「英国では一日の中に四季がある」という話がありますが、これは本当です。ときには晴れ、曇り、雨、（時にはヒョウ）が一日に何度も繰り返され、気温の変化も激しいです。フード付きのウインドブレーカーは1年を通じて必需品です。海辺のブライトンは、冬は風が強くなるのですが、夏には20～25度で湿気が無く、また10時頃まで明るいので、仕事を終えた後にゴルフなどを楽しむ人も多いようです。しかし、日本では夏の季語となっている花火は、英国では晩秋の風物詩。夏にやろうとしたら夜中になってしまうのです。セーターを着込み、息を白くして見物するのが英国流です。2000年元旦のカウントダウンでは大量の花火が打ち上げられ、1時間にわたって夕方のような明るさでした。



仕事では、担当地域がヨーロッパ全体ということもあって、出張先は10ヶ国を越えます。さまざまな文化を持った街や人々に出会えるのは本当に刺激的です。企業や研究所を訪ねて、観光客が決して訪れないような街に向かうこともあります。街角で前から歩いてくる子供に指差されることもしばしば。そんな場所では、お互いにとって外国語である英語を駆使（苦使？）しながら、身振り手振りを交



えて意志の疎通を図ることになります。双方が歩み寄り、理解し、笑う。それは、ヨーロッパの多様性を楽しむ瞬間であり、実はお世辞半分で英国人に英語を誉められるよりもずっと大きな喜びなのです。



勤務先の概略

IMRAヨーロッパとは、アイシングループの研究機関であり、本社はフランスにあります。山田はアイシン高丘からの出向で赴任しています（あと2年したらアイシン高丘本社に戻ります）。

冒険家となって

静岡大学大学院理工学研究科博士後期課程2年 設計科学専攻
有限会社カラビナシステムズ 研究開発担当取締役 実行最高責任者
金指 文明 (E29)

沼津高専を卒業して6年が経ちました。在学時は応援団をやっていたこともあり、夏には野球応援に参加することが毎年の恒例となっております。今でも学生服を着て舞台にあがりたいたいぐらいです！

私は現在静岡大学大学院理工学研究科の博士課程に在学しております。情報工学（コンピュータ）関係の研究室におり、主に情報システムの開発方法論に関する研究を行っております。

2000年6月には現在研究している内容とこれまで暖めてきたアイデアを武器にベンチャー企業カラビナシステムズを設立いたしました。この会社では独自のソフトウェアの部品化技術により、開発・保守・運用の低コスト化を進めております。結果的にソフトウェア技術者の負担を軽減し、安価で信頼性の高いシステムの増産を可能にすることで社会全体の業務の情報化推進をめざしております。現在、静岡大学と共同研究を行っており、大学の研究成果を迅速に実際の現場に応用するなどの産学連携の試みも行っております。

高専時代からベンチャー企業を興したいという願望がありましたが、ようやく第一歩を踏み出すことができました。企業を興した理由はいろいろあるのですが、やはり一番大きい理由は「日本にシリコンバレーのような環境を作りたい」ということです。技術や企業化精神を持つ人間が集い、近隣の学術機関との連携が強く、世界に通用する多くの企業が生まれる環境、アメリカのサンノゼのような環境を日本に作りたいのです。実際にシリコンバレーを日本に作るというよりは、そのような精神を持つ人間のコミュニティが形成できればと思ってます。昨年シリコンバレーに行く機会がありましたが、その雰囲気非常に驚きました。風土や歴史的背景がそう思わせるのでしょうか？このような場所で勉強したい。仕事をしたいと心の底から思いました。

まだ駆け出しの企業ですが、社員は大きな野望をもって世界に挑戦しております。

Copae

編集後記

今回のコプスは名簿の発行の為、久しぶりの発刊となりました。原稿集めもEメールで送信してもらうなど協力していただきました。

これからは住所変更等もEメールで処理してゆきたいと思います。そして、会誌発行の際の寄稿も幅広く受け入れられるようにしたいと思います。

nct-dsk@thn.ne.jp



Copse 第15号

平成13年3月31日発行

●発行責任者/木/内 倫弘

●発行所/沼津工業高等専門学校同窓会
〒410-8501 沼津市大岡3600TEL0559-21-2700

●印刷所/ジャパン コミュニケーション
〒410-0043 沼津市柳町3-15TEL0559-23-0123

同窓会員住所不明者リスト

2001/3月現在

現在下記約1,000名の会員の皆様の住所及び勤務先が不明となっております。
手がかりとなる情報をご存じの方は、お手数ですが下のアドレスまでご一報ください。

e-mail : nct-dsk@thn.ne.jp

または FAX 0559-22-5378

A01010	柳 詰 泰	C10009	加藤 浩	C15019	酒井直樹	C20006	小野塚利彦	C24003	飯田孝一	D06013	蔵敷好勤	E09020	瀧口 清	E17023	田辺雅章	E21044	渡辺保雄
A01017	村岡英明	C10010	川鍋宏之	C15020	白倉幸夫	C20012	佐藤憲一	C24009	荻田章弘	D06018	島田伸仁	E09033	三島正夫	E17024	堤 和之	E22011	太田昌男
A01021	渡邊尚史	C10020	瀧 真佐留	C15022	鈴木竜太	C20018	鈴木 司	C24011	久野陽子	D06020	鈴木隆裕	E10004	江村健一	E17030	長沢英幸	E22017	川村 淳
A02010	江副正人	C10026	永井浩一	C15025	加藤明美	C20020	竹島孝治	C24014	佐藤 覚	D06023	友田憲吾	E10020	竹内照夫	E17031	中村宏一	E22022	高木 猛
A02020	宇井鄒芬	C10030	松尾裕治	C16005	今井 正	C20024	永井健一	C24016	見崎江里子	D06032	松下修也	E10021	寺田由孝	E17040	村松勝広	E22028	中村泰教
A02022	水野達弥	C10035	山本 靖	C16007	梅原勝海	C20026	半田晴久	C24021	山田 純	D06040	山本和宏	E10034	白井康夫	E18001	芦沢輝久	E23001	赤池 清
C01025	日向清隆	C11002	石田雅己	C16010	小野田祥久	C20032	松浦寿広	C25007	井上 隆	D07002	石川泰広	E11001	石黒伸幸	E18012	大塚謙太郎	E23003	石垣 靖
C01032	三浦 進	C11011	勝又幸雄	C16013	柴田和成	C20033	松下容三	C25008	上杉幸代	D07003	井浪啓孔	E11015	鈴木唯志	E18014	小沢 優	E23004	石田昭一
C02008	柏木忠久	C11012	河合慶明	C16020	高田智弘	C20038	山本幸弘	C25009	浦野秀一	D07006	大石 淳	E11022	野中直明	E18017	加藤賢一	E23007	鶴殿治彦
C03006	梅田良明	C11014	嶋 秀二	C17008	上田恭太	C21003	Keiko I Jang	C25016	小林正利	D07009	久米文武	E12005	石間克則	E18019	佐野高信	E23008	大石信夫
C03015	白井祥夫	C11017	鈴木利幸	C17027	竹平章良	C21004	梅澤華織	C25021	関口博史	D07011	小谷 衛	E12019	下村幸男	E18021	下位展久	E23015	栗本潤一
C03024	福井 昇	C11018	鈴木智久	C17036	野村敬明	C21007	松島真理	C25032	廣田恵子	D07013	洪田裕司	E12020	杉山英則	E18025	中野基生	E23018	佐々木孝二
C03028	山本和彦	C11019	鈴木 均	C18001	青島幸生	C21009	木野 努	C25034	増山 和	D07023	橋本秀史	E12022	鈴木宏典	E18032	山田忠義	E23020	榛葉智洋
C04012	庄司 誠	C11023	中野道夫	C18007	伊藤 悟	C21015	鈴木賢二	C25034	増山 和	D07024	林直幸	E12034	松村正弘	E19003	井口智啓	E23024	鈴木邦治
C04016	鈴木秀規	C11024	中山隆広	C18007	伊藤 悟	C21015	鈴木賢二	C25034	増山 和	D07029	三尾雅彦	E12036	宮崎昭洋	E19004	石橋三由	E23035	古谷清藏
C04023	疋田康司	C11025	日吉好彦	C18014	川島一真	C21016	其田卓也	C25016	小林正利	D09002	浅田和秋	E13002	飯野隆一	E19008	大矢元一	E24001	青木 修
C05011	小豆川裕男	C11026	深沢博之	C18018	塩田和広	C21018	竹口昌之	C25021	関口博史	D09008	上島洋輝	E13003	井澤一明	E19011	小澤義宏	E24008	加藤 弘
C05012	杉山一弥	C11027	前田隆司	C18019	庄司裕美子	C21021	中野 慎	C25032	廣田恵子	D09010	亀山輝明	E13008	植松高志	E19017	坂元成彰	E24012	小林修一
C05015	鈴木正育	C12008	石川不二人	C18021	杉山 晃	C21024	夏井 健	C25043	山本憲宏	D09017	ガンボルド	E13012	大高光良	E19025	高嶋康弘	E24016	塩谷聖悟
C05017	田代孝行	C12014	倉本雅文	C18032	林田充司	C21025	沼上英治	C25045	渡邊尚史	D09031	杉村 純	E13016	佐野勝敏	E19027	瀧澤 勉	E24017	柴崎俊一郎
C05020	中西正泰	C12025	外田豊久	C18034	廣川栄二	C21027	福岡勝典	C25045	渡邊尚史	D09042	山本政信	E13018	鈴木裕巳	E19030	中村明生	E24019	地代所伸治
C05029	丸山 章	C13001	青木 正	C18035	古田裕美	C21035	元杉直也	C25045	渡邊尚史	D09042	山本政信	E13020	高橋 修	E19031	長坂宗男	E24033	望月孝芳
C05031	望月民男	C13001	青木 正	C18036	牧野敏子	C21036	八木秀幸	C25045	渡邊尚史	D09042	山本政信	E13021	竹下健一郎	E19040	山田 貴	E24034	森 和彦
C06005	漆畑敬雄	C13010	大井明彦	C18036	牧野敏子	C21036	八木秀幸	C25045	渡邊尚史	D09042	山本政信	E13022	中村展明	E19045	渡邊辰男	E24035	柳谷恵一
C06007	大貫政義	C13014	勝間田仁之	C19002	川島恵子	C22005	石川 隆	C25045	渡邊尚史	D09042	山本政信	E13029	早川誠次	E20002	石川勝利	E24037	山口公博
C06010	五島祐二	C13016	川嶋裕幸	C19006	勝亦匡秀	C22008	岩崎譽幸	C26006	石崎浪子	D09042	山本政信	E13030	原田健一	E20003	石間礼次	E24039	吉田延行
C06016	杉山欣二	C13017	北野琢磨	C19010	小西逸人	C22009	岩田 武	C26006	石崎浪子	D09042	山本政信	E13037	三輪哲也	E20004	岩崎慶介	E25016	志田貴浩
C06027	平尾一郎	C13021	砂間篤志	C19011	五明礼司	C22014	長谷川順子	C26017	木部 啓	D09042	山本政信	E13043	由比藤光宏	E20005	上杉智昭	E25019	鈴木伸一郎
C06029	増田圭介	C13022	関野一仁	C19012	坂本哲夫	C22026	田中基樹	C26017	木部 啓	D09042	山本政信	E13045	吉沢 浩	E20007	大川知彦	E25029	橋本英生
C07009	川嶋 智	C13027	中嶋幸裕	C19018	田口紀一郎	C22029	名取由香	C26017	木部 啓	D09042	山本政信	E14026	村松晃彦	E20008	大室昌己	E25030	服部 正
C07033	横田忠昌	C13029	中山義光	C19019	谷内博一	C22032	青山本美	C26017	木部 啓	D09042	山本政信	E15011	落合良和	E20013	佐野忠之	E25034	松本優一
C08001	有賀 修	C13035	山浦一友	C19020	土田卓也	C22033	青山本美	C26017	木部 啓	D09042	山本政信	E15019	菅沼秀年	E20017	世古典行	E25036	山口隆士
C08013	佐藤一馬	C14007	勝又俊幸	C19022	出木 晶	C22039	山本智明	C26017	木部 啓	D09042	山本政信	E16002	浅野隆行	E20023	玉川正明	E25038	米山大輔
C08018	曾根孝之	C14008	菅埜幸治	C19024	中田雄史	C23001	相場信寿	C26017	木部 啓	D09042	山本政信	E16003	飯田龍也	E20028	橋本 篤	E26001	天野 繁
C08021	辻 世津子	C14018	中村清文	C19025	仲野輝徳	C23004	伊東尚子	C26017	木部 啓	D09042	山本政信	E16005	犬飼彰二	E20029	橋本広光	E26002	安齊芳之
C08029	山崎 昭	C14018	中村清文	C19030	宮下政人	C23015	今野雪絵	C26023	塩澤隆二	D09042	山本政信	E16006	井上勝己	E20030	長谷川陽二	E26003	池田和由
C09004	荒川和夫	C14025	平田雄二	C19033	山口秀人	C23016	佐藤 裕	C26024	清水孝之	D09042	山本政信	E16008	萩 武司	E20031	服部浩之	E26004	泉谷光広
C09033	兵藤 聡	C14035	渡辺信男	C19037	霞川達也	C23021	芹澤 徹	C26025	杉山美紀	D09042	山本政信	E16009	小野三郎	E20032	前川 薫	E26009	桂 元保
C09034	堀江 隆	C15006	井本匡美	C20003	遠藤重信	C23022	高山美穂	C26025	杉山美紀	D09042	山本政信	E16010	桂 進司	E20033	宮田忠幸	E26013	小齊 明
		C15009	加藤美保	C20004	大石智己	C23033	若林哲也	C26025	杉山美紀	D09042	山本政信	E16011	金子孝浩	E20034	宮田義則	E26014	齊藤永剛
		C15011	加藤勝彦	C20005	落合久雄	C23034	袋井桂華	C26025	杉山美紀	D09042	山本政信	E16013	川村浩正	E20036	斉藤 博	E26015	佐藤陽介
						C23041	室伏 剛	C280044	渡邊千景	D09042	山本政信	E16020	清水真治	E20038	八木祥浩	E26016	塩津文規
										D09042	山本政信	E16022	鈴木博之	E20039	山下一彦	E26017	菅野松佐登
										D09042	山本政信	E16023	鈴木光男	E20041	渡邊信彦	E26018	杉山主税
										D09042	山本政信	E16027	奈良間 雄	E21002	跡見友康	E26022	須藤義明
										D09042	山本政信	E16031	藤井徳治	E21016	佐野俊文	E26027	玉城 光
										D09042	山本政信	E16034	増田浩重	E21017	清水英生	E26029	中嶋康秀
										D09042	山本政信	E16036	望月紀宏	E21023	月原浩司	E26031	野沢知由
										D09042	山本政信	E17002	懸 立之	E21028	八郷昭広	E26034	伏見 玲
										D09042	山本政信	E17005	大島 直	E21031	増田 司	E26035	前田幸治
										D09042	山本政信	E17008	小川直久	E21033	松村忠幸	E26037	儘俣田 浩
										D09042	山本政信	E17017	小宮雅巳	E21037	望月 直	E26040	安池直樹
										D09042	山本政信	E17018	齋木 真	E21038	柳谷武史	E27008	太田克己
										D09042	山本政信	E17020	杉浦 寿	E21042	吉川邦彦	E27011	大畑和幸

E27015	神谷 猛	M02007	上野正好	M07064	八木壮一	M12029	北沢義史	M15046	高木 豊	M18013	大塚靖史	M20082	門奈晃弘	M24038	高木雅人	M28045	鈴木健一	S02028	永弘進一郎
E27021	澤田英行	M02040	関谷穂積	M07066	山本憲一	M12038	杉本貞彦	M15049	立花久典	M18016	落合光敏	M20083	安田政明	M24040	高山和洋	M28054	高木正英	S02029	ナボレオン
E27023	杉山貴紀	M02041	高野哲夫	M08002	青野隆己	M12040	杉山 實	M15052	戸田雅直	M18025	小清水博明	M21003	渥美修一	M24051	根岸祐司	M28060	中村和一	S02032	平井崇英
E27026	田中 努	M03020	金子光司	M08008	伊藤昭夫	M12045	須田泰裕	M15054	中川義教	M18026	小西 稔	M21010	岩倉敏洋	M24058	松本知博	M28062	能勢達也	S03013	後藤裕介
E27027	長島淳一	M03027	斉藤 総	M08012	内野巧一	M12073	山内俊明	M15056	中山昭弘	M18028	小林 均	M21012	岩田明生	M24068	安田真一	M28077	許安昭男	S03023	長澤 直
E27030	藤田真記	M03034	白井民夫	M08014	大野錦司	M12079	渡辺正行	M15058	長谷川伸幸	M18031	佐野英樹	M21013	内田高行	M24073	山田宏彦	M29003	池田武人		
E27031	正木康雄	M03047	中村博行	M08020	金子淳一	M13003	飯田和幸	M15061	平野昌章	M18033	澤田 清	M21018	小木野浩三	M25009	磯 貴博	M29004	石井公啓		
E27037	山田一也	M03050	永井哲夫	M08022	菊川 誠	M13008	池端真康	M15062	松井伯夫	M18035	白鳥博之	M21021	加藤毅博	M25011	岩間敏章	M29008	岩城孝広		
E27039	山本哲也	M03056	松井貞行	M08032	佐伯博道	M13014	榎本隆二	M15063	峰田喜代二	M18044	戸塚茂樹	M21023	川口和也	M25016	梶山尚志	M29009	岩城匡宏		
E28003	市川 敦	M03059	宮入信雄	M08034	柴田保彦	M13015	大石 忠	M15069	山田義一	M18047	中道積治	M21033	佐々木泰幸	M25032	杉山健一	M29036	鈴木善男		
E28004	稲葉 敦	M03062	矢崎 孝	M08035	嶋原秋雄	M13024	片山岳男	M15072	和田一浩	M18050	名倉俊明	M21035	佐藤公彦	M25034	鈴木克己	M29038	高梨 淳		
E28006	梅津大輔	M03065	山口清美	M08037	杉田 勤	M13026	黒田秀樹	M15073	和田宏二	M18055	藤村和彦	M21040	杉山裕充	M25043	鈴木祐也	M29045	土屋弘慶		
E28009	小田井正樹	M03070	和田正徳	M08041	鈴木 光	M13028	興梠 裕	M15074	渡辺芳彦	M18056	星山明浩	M21041	鈴木和重	M25055	林 淳司	M29046	手塚幸治		
E28013	黒下彰喜	M04009	市川 章	M08042	芹沢幸男	M13029	後藤秀人	M15075	渡辺頼光	M18060	松田敏之	M21045	高橋 実	M25057	平嶋幸男	M29047	出村康熙		
E28014	小林真人	M04012	岩崎金次郎	M08044	平良静夫	M13032	榊原靖浩	M16002	五十嵐泰生	M18062	松山和広	M21055	福地信吾	M25058	藤川 純	M29052	鈴木綾乃		
E28016	實藤晃則	M04013	岩永一夫	M08047	滝口成夫	M13034	白鳥弘敏	M16003	石神弘志	M18063	三浦孝明	M21057	堀住竜治	M25065	山崎弘靖	M29061	牧野浩士		
E28026	徳田匡彦	M04016	小笠原 健	M08048	田中勝志	M13035	杉山光雄	M16004	石川喜章	M18065	金子和宏	M21064	山崎米寿	M25066	山本邦博	M29065	宮田 誠		
E28028	早川公章	M04018	小澤廣志	M08054	中村雅之	M13036	杉山吉弘	M16005	石塚徳広	M18067	諸田正弘	M22011	上田泰博	M26003	渥美 力	M29071	山本文昭		
E28032	宮原 強	M04026	茅野千治	M08055	中村優一	M13039	鈴木 徹	M16014	岡寄真一	M18069	安森稔幸	M22057	中村三千夫	M26007	井口貴博	M29074	横田川弘喜		
E29001	赤嶺初志	M04029	串田 茂	M08058	成川建三	M13041	鈴木正利	M16015	小川喜弘	M18071	山本哲矢	M22073	真野 毅	M26009	池谷純男	M30014	植村和弘		
E29003	大川友文	M04030	熊切英幸	M08059	西沢義人	M13046	田口博史	M16018	川村民応	M18073	吉村 努	M22076	村田敏昭	M26014	遠藤誠一	M30017	岡部重徳		
E29005	岡部邦典	M04032	後藤政志	M08070	松下之計	M13053	野村高秀	M16023	近藤正次	M19010	岩本智司	M22079	山崎高光	M26024	勝又弘久	M30018	長田 忍		
E29010	川村武志	M04035	桜井成好	M08077	山本 薫	M13057	速見 進	M16028	鈴木章夫	M19015	大野愛義	M22083	山田伸弥	M26029	菊地 崇	M30029	小坂尚輝		
E29018	堺 文裕	M04046	鈴木俊一	M08078	山本 仁	M13058	日吉正美	M16029	鈴木一隆	M19017	奥平哲也	M22085	山田 豊	M26033	櫻井弘章	M30036	佐野浩之		
E29019	桜井清吾	M04048	鈴木兵治	M09004	有賀信義	M13060	深田猶人	M16030	鈴木圭一	M19035	杉山一夫	M22089	渡辺克彦	M26035	佐原栄一	M30039	島村直也		
E29020	佐津川大助	M04051	武 茂昭	M09006	井沢庄次	M13063	本間 仁	M16032	鈴木誠光	M19039	杉山 実	M23001	青木一成	M26040	鈴木昭雄	M30043	鈴木俊成		
E29035	寺田圭助	M04054	内藤 勲	M09009	伊藤 進	M13067	松浦靖幸	M16033	高川友市	M19058	藤田義康	M23002	青山和彦	M26044	鈴木武彦	M30053	寺田勝彦		
E30014	久村 仁	M04063	福島正士	M09013	植田 修	M13070	真野孝治	M16038	津田裕一	M19065	三井栄司	M23005	渥美浩康	M26052	田中茂彰	M30069	宮内慎也		
E30023	高橋 昇	M04069	三浦敏博	M09014	内山 孝	M13072	室田訓男	M16039	鶴田勇一	M19070	向平直史	M23011	石野田和英	M26056	中野忠晴	M30075	渡邊 匠		
E30024	高山直也	M04070	水谷義郎	M09016	大村一好	M13073	安川 修	M16040	友田光弘	M19082	渡森和彦	M23012	井添信晴	M26057	中村重治	M31005	井原武志		
E30027	中村朗子	M04071	望月正美	M09019	小原好雄	M14009	入月一行	M16043	中嶋章博	M20001	青野則和	M23014	稲葉利幸	M26064	畠山顕秀	M31006	今岡健太郎		
E30028	長峰勇人	M04072	森山金悟	M09020	笠井 一	M14026	国分宏悦	M16047	浜 康之	M20004	池谷嘉裕	M23018	大石泰礼	M26066	原田成樹	M31007	岩田和之		
E30033	森 紀巳彦	M04075	山本雅和	M09022	加藤賢二	M14042	富永保隆	M16049	平垣喜男	M20010	市川浩明	M23020	大野和英	M26079	山田敦則	M31015	小野田将人		
E31019	佐保博樹	M04076	湯山幸夫	M09024	河合司郎	M14045	中村伸一	M16062	水野智昭	M20013	大野知行	M23025	片山英二	M26084	渡邊健志	M31016	片山賢人		
E31023	鈴木明男	M04077	吉田友久	M09025	川崎美佐雄	M15001	青池 浩	M17005	磯野義男	M20014	大森利彦	M23026	勝又宏司	M26085	渡邊 孝	M31018	斎藤崇人		
E31024	鈴木利幸	M04079	渡辺憲蔵	M09032	榊原 伸	M15002	青木克之	M17008	内山暢也	M20017	織笠 修	M23029	河村省吾	M27001	青木孝介	M31021	塩津 勇		
E32002	石神賢一郎	M05003	飯高 博	M09040	鈴木鉄男	M15005	五十嵐成治	M17020	紅林博文	M20018	加藤 勝	M23031	草野 豊	M27012	小川信浩	M31022	渋谷俊和		
E32009	川村文人	M05016	大野順三	M09051	長倉哲雄	M15006	池谷晃一	M17027	小村明彦	M20020	河合洋文	M23034	小島昭二	M27030	櫻井裕司	M31023	清水功史		
E32010	栗田 誠	M05033	佐野一義	M09054	橋本守司	M15009	井出 寛	M17039	柏木克人	M20024	黒田武志	M23041	佐藤信一	M27032	佐野純也	M31029	竹内昭光		
E32022	寺田智彦	M05037	鈴木克利	M09056	大島三司	M15010	稲葉則昭	M17042	鈴木浩司	M20033	杉山茂樹	M23045	白土達夫	M27037	鈴木章博	M31038	増尾博和		
E32024	西島雅典	M05039	鈴木 務	M09062	望月清平	M15011	今田直樹	M17045	鈴木裕一	M20038	芹澤弘司	M23046	深谷哲司	M27039	鈴木利寿	M32007	加藤 晃		
E32029	日吉 功	M05042	鈴木真琴	M09065	山内 栄	M15014	遠藤二有	M17052	中野幸男	M20039	芹澤孝治	M23049	清 淳一	M27040	鈴木康仁	M32014	佐野雅靖		
E32031	廣岡千里	M05044	鈴木幹雄	M09068	山本健太郎	M15017	太田和宏	M17055	長谷川正樹	M20040	芹沢弘秀	M23062	長谷川裕二	M27053	袴田 希	M32018	渋谷正太		
E33012	吉川岳流	M05045	田口尊博	M10012	遠藤 晃	M15018	大嶽 誠	M17063	増田 充	M20042	高田正義	M23064	藤井 保	M27058	藤沼常男	M32022	ズルキフリ		
E33015	粉川直樹	M05051	中戸川 武	M11003	伊藤善久	M15019	奥田哲司	M17064	増田貴之	M20044	滝浪文裕	M23068	光吉亨司	M27066	宮城島要	M32027	中嶋郁磨		
E33022	杉山勇人	M05052	西村正敏	M11007	植平一郎	M15021	垣見義治	M17069	矢野哲哉	M20047	田辺東一	M23069	村上友章	M27072	山崎友道	M32036	水永 覚		
E33039	山脇裕一	M05059	藤田 勇	M11026	清水 明	M15022	片山哲郎	M17070	山崎賢二	M20050	辻 雅一	M23076	山田高久	M28008	磯部幸司	S01008	江副正人		
M01016	沖沢哲夫	M05068	山内雄二	M11033	田中 央	M15024	川上尚利	M17077	頼田 稔	M20054	中野敏光	M23078	山本和治	M28015	梅原 肇	S01027	長濱良太		
M01017	小木顕朔	M05072	吉田公信	M11052	戸次義晴	M15030	紅林俊道	M18001	赤堀隆司	M20055	中村寿伸	M23080	米井彰宏	M28017	大石幸弘	S01032	日向辰二		
M01027	草ヶ谷正樹	M06007	太田和義	M12005	石田幸久	M15035	志村緑朗	M18004	市川祐治	M20061	永田久人	M24004	天野剛也	M28023	金子智一	S01033	藤田孝次		
M01037	清水 茂	M06034	澤田立志	M12011	梅林義弘	M15038	杉浦吉浩	M18006	伊藤貢司	M20063	野本喜昭	M24011	岩間秀司	M28024	菊池正幸	S01034	藤原正英		
M01052	橘 孝次	M06068	森田 誠	M12023	加藤温樹	M15039	鈴木幸治	M18007	遠藤 昇	M20065	原崎浩晴	M24016	大橋孝一	M28026	木佐木晃	S02010	金子夏純		
M01069	藤波義司	M06069	山口昌恒	M12025	川崎正敏	M15040	鈴木治彦	M18009	大角 明	M20073	前島 智	M24032	清水博之	M28031	小長谷文人	S02019	佐藤 大		
M01078	山本 貢	M07043	谷 和昌	M12026	河原宏義	M15041	鈴木雅晶	M18011	大嶽輝真	M20081	持永修二	M24034	白鳥栄次	M28035	佐々木信行	S02020	佐野 豪		